

# 第1学年2組 図画工作科学習指導案

令和3年10月1日(金)第5校時

場所 図工室

児童数 男子20名女子10名計30名

指導者 教諭 山口平和

## 1 題材名「ようこそ！はこのくにへ」

A表現 (1) イ、(2) イ、 B鑑賞 (1) ア 立体、 [共通事項] (1) ア、イ

## 2 題材について

### (1) 児童の実態

本学級の児童は、図工が好きな児童が多い。図画工作科が好きである理由としては、「いろいろなものをつくれるから」と答えた児童が多かった。しかし、「アイデアを考えるのは楽しい。」という児童は67%とやや少ない。また、「材料や道具を工夫して作ることができる。」という児童も57%と少ない。その要因として、「つくり・つくりかえ・つくる」を促すことに重点を置いた指導が少なかったことが要因と考えられる。

児童は、これまでに材料については、画用紙や折り紙、油粘土を扱ってきた。1学期に行った「ねんどとなかよし」では、粘土を四角や丸にしたり、ひも状にしたりすることから思い付いたものを、楽しみながら自らの思いを表現した。しかし、中には何をつくれればよいかなかなか思い付かない児童が数名いたので、途中で隣の席の児童と見合ったりする時間を設けた。その結果、発想を広げ、表したいことを見つけて楽しく活動することができた。

本題材「ようこそ！はこのくにへ」では、粘土とは違い決まった形同士を組み合わせる際にマスキングテープや接着剤を用いるので技術的にも少し難しくなる。しかし、一つの形ができた後も、友達との対話をしたり互いの作品を見合ったりすることからさらにイメージを広げ新しい形につくりかえることができると考える。決まった形の箱と箱を工夫して組み合わせながら様々なものに見立てることをねらいとし、自由に組み合わせる楽しさを味わわせたい。

### (2) 本題材を指導するに当たって

本題材で扱う「箱」には、今まで十分に扱った粘土とは違う3つの性質がある。1つ目は、可塑性がないということである。箱は、押し潰したりしても復元することができない。また、伸ばしたり縮めたりするなど変形することもできない。2つ目は、粘着性がないということである。粘土同士であれば容易に接着することができる。しかし、箱と箱を接着するには接着剤が必要である。3つ目は、土台が安定しないということである。粘土であれば、傾斜しても倒れにくい。しかし、ティッシュの箱は斜めにすると重力がはたらきすぐに倒れてしまう。

本題材の「箱」は、お菓子の箱やティッシュの空き箱など日常生活で簡単に手に入り、形も大きさも色合いも多種多様で軽くて扱いやすい為、低学年の児童に適した素材である。この身近な材料である空き箱をどんどん並べたり、積んだり、つないだりすることによって、その形や色などから想像を広げ、思い付いたものをつくっていく。大小様々な種類の箱を準備させ、箱の形や色の組合せ方を考えることで発想が広がっていく題材である。

「箱」を使って、自分が表したいことを表現する楽しさや充実感を感じさせたい。また、出来上がった作品を見ながら友達の作品を視点を変えて見る面白さや工夫している所を探させるようにする。友達のよさを認め合うことで、児童一人一人がこれからの表現活動に自信を持って取り組めるようにしていきたい。

### 3 学習指導要領上の位置づけ

本題材は、小学校学習指導要領図画工作第1学年及び第2学年の内容A表現(2)を受け、特に「絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したことから、表したいことを見付けることや、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えること。」に重点を置いて設定している。

#### A表現(1)

イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したことから、表したいことを見付けることや、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えること。

#### A表現(2)

イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表すこと。

#### 〔共通事項〕

「A表現」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付くこと。「知識」

イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。「思考力、判断力、表現力等」

### 4 研究主題との関わり

#### (1) 研究主題

「自ら学び、豊かな表現力をもった児童の育成 ～あいを広げる作品作り～」

#### (2) 学年ブロックにおける研究重点

「つくり・つくりかえ・つくる」を促す造形題材の設定

#### (3) 学年における研究仮説と手立て

仮説Ⅰ「発達段階に応じた技能を定着させ、個々の表現活動を認めれば、自信を持ち楽しんで表現活動に取り組める児童が育つだろう。」

#### 【手立て①】 用具の工夫

空き箱の組み合わせの際、空き箱が破れないように仮止め用のマスキングテープ、匂いがきつたくなく速乾性の高い接着剤カネスチックを段階的に使用することで、創作活動に見通しと自信を持たせ、よりよい作品づくりができるようにする。

#### 【手立て②】 場の設定

児童と教師が早い段階での多種多様な材料集めを行い、教室の前に配置することで、自ら作品に合う材料を選び表現することができるようにする。

仮説Ⅱ「もの、こと、ひととの交流を通して、「あい」を実感できる学習活動を展開すれば、自他の良さを理解し、自分の思いを豊かに表現できる児童が育つだろう。」

#### 【手立て③】 中間交流

作品作りの途中にお互いの作品を見合う「見て見てタイム」の設定し、自分とは違う見方や表現のよさを認め合ったり、技法を気軽に聞き合ったりする場を設定し、対話が活発に行えるようにする。

## 5 目標及び評価規準

### (1) 目標

- 空き箱の形や色の面白さに気づき、空き箱の組み合わせ方や接着方法など、表したいことをもとに工夫して表現する。 <知識・技能>
- いろいろな空き箱を組み合わせることを通して、形や色などをもとにつくりたいものを思いついたり見立てたりしながら、どのように表すかを考える。 <思考・判断・表現>
- 自分や友達の仕事の面白さや工夫している所について、自分の見方や感じ方を広げる。 <思考・判断・表現>
- 空き箱を組み合わせることによっていろいろな形を思いついたり見立てたりすることに関心を持ち、楽しく取り組もうとしている。 <学びに向かう力・人間性等>

### (2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>知</b> いろいろな空き箱を組み合わせることを通して、紙箱の形や色の面白さに気づいている。 <b>技</b> 空き箱の組み合わせ方や飾りつけ、接着の方法など、表したいことをもとに工夫して表している。	<b>発</b> いろいろな空き箱を組み合わせることを通して、形や色などをもとにつくりたいものを思いついたり見立てたりしながら、どのように表すかを考えている。 <b>鑑</b> 自分や友達の仕事の面白さや工夫している所について、自分の見方や感じ方を広げている。	<b>態</b> 空き箱を組み合わせることによっていろいろな形を思いついたり見立てたりすることに関心を持ち、楽しく取り組もうとしている。

### (3) 評価計画及び評価方法 (○：指導に生かす評価、◎：全員の学習状況を記録に残す評価)

時	1	2	3	4	評価方法
観点					
知識・技能		◎ <b>知・技</b>			行動観察
思考・判断・表現	○ <b>発</b>		◎ <b>発</b>	◎ <b>鑑</b>	行動観察、対話
主体的に取り組む態度	◎	○		◎	行動観察、発言、表現

## 6 指導計画 (4時間扱い)

- (1) 積む、つなげる、並べるなど箱を組み合わせることができる形を楽しみ、イメージをもとに形をつくる。
- (2)・(3) 接着剤を使って箱と箱を組み合わせ、友だちとつくっているものを見合いながら工夫して作品に表す。
- (4) 互いの作品を鑑賞し、友だちと一緒に作品で遊び友達の作品のよさに気づく。

## 7 本時の学習 (本時 1 / 4時)

### (1) 目標

いろいろな空き箱を組み合わせることを通して、形や色などをもとにつくりたいものを思いついたりいろいろなものに見立てたりしながら、どのように表すかを考える。

(2) 準備

教師 空き箱、デザート用の容器など、マスキングテープ

児童 空き箱

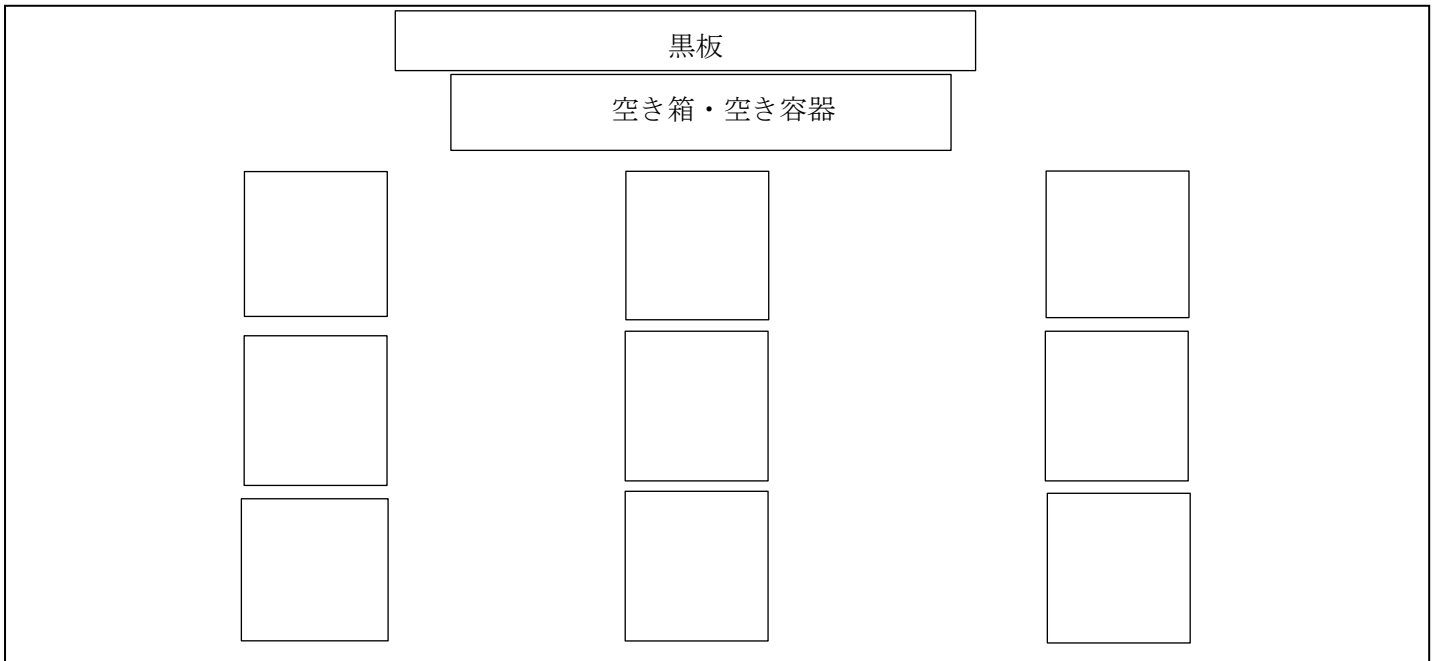
(3) 展開

過程時間	学習活動 予想される児童の具体的な姿 (「」)	指導の工夫 (〔共通事項〕に係る内容 ア____、イ_____)	評価と手立て 観点：評価規準（評価方法） ◎：十分満足できる状況 ◆：B評価に達しない児童への手立て 【 】：研究仮説に対する手立て
事前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室に様々な空き箱を置いておき、休み時間に自由に組み合わせる。</li> <li>・夏休み前に学年だよりでお菓子、化粧品などの空き箱を保護者や児童に呼びかけ、夏休み中に集めておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書を見ながらお菓子や化粧品などの空き箱が材料となることを知らせ、どんな材料が使えるそうかを考えさせる。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>大きな箱ばかりにならないように、小さな箱も集めておくように声掛けする。</p> </div>
導入 5分	<p>1 教師がその場で組み立てた作品で、見立て遊びをする。</p> <p>「かえるがうさぎになった。」 「たこに見える。」 「お城みたい。」 「きりんみたい。」 「僕から見るといすみたい。」</p> <p>2 学習の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○材料・用具の説明をする。</li> <li>○マスキングテープの使い方を紹介する。</li> <li>○みんなで集めた空き箱の形を紹介し、同じ箱でも「並べる」「重ねる」ことでどんなものに変身するか試してみようと呼びかけ、大型テレビで映し向きを変えたりして様々な見方をさせる。</li> <li>○どこからそう思ったのかを聞き、発表した児童の視点を共有し、<u>空き箱の形や色などに気付いている児童のイメージ</u>を共有する。</li> <li>○今後の学習活動の流れを確認する。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>セロハンテープと違って容易にはがせる・手で切れるなど実際にマスキングテープで貼るところを見せる。</p> </div> <p>【手立て①】 用具の工夫 【手立て②】 場の設定</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>見立てたことを発表し合うことで、友達の考えをヒントにしなが、より想像を膨らませるようにする。</p> </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>提案 はこをくみあわせて、はこのくにへれっつごー！</p> </div>			
展開 30	<p>3 題材を体験する。</p> <p>(1) 空き箱をくっつけて、どんな形ができるか試す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○途中で教室の材料を取りに行ってもよいことを確認する。</li> </ul>	<p>態 空き箱を組み合わせること でいろいろな形を思いついたり見立てたりすることが</p>

分	<p>(2) グループの友達の作品の見立て遊びをする。 「わたしはウマに見えたよ。これなにに見える？」 「ワニに見えるよ。」 「チーターにも見えるね。」</p> <p>(3) 友達の意見を参考に箱と箱を組み合わせ方を変えたりさらに工夫したりする。 「四角い箱を重ねてお城をつくれたよ。」 「最初は、ぞうが作りたかったけれど細長い箱に足をつけてチーターを作りたい。」</p>	<p>○はさみは使わないようにさせる。</p> <p>○見て見てタイムを設定し友達の作っている物を見せ合い<u>自分のイメージを広げたり深めたりする。</u></p> <p>○みんなで作品を様々な方向から見るとように声をかけ、一つの見方にとられないようにする。</p> <p>○机間指導をしながら、2、3人写真を撮っておき紹介する</p>	<p>できることに興味をもち、楽しく取り組もうとしている。(行動観察・対話・表現)</p> <p>◎進んで材料を選び、手や体を動かしている。</p> <p>◆形や色、柄など、材料の特徴に目が向くように声掛けをする。</p> <p>【手立て③】 中間交流</p> <p>発 いろいろな空き箱を組み合わせることを通して、形や色などをもとにつくりたいものを思いついたり見立てたりしながら、どのように表すかを考えている。(発表・行動観察・対話・表現)</p> <p>◎形や色などをもとにイメージを広げて表したいことを見つけ、どのように表すかを考えている。</p> <p>◆思いつかない児童には、一緒に考えながら発想のきっかけが見つけられるようにアイデアを出す。</p>
整理 10 分	<p>4 本時の活動の感想を出し合う。</p> <p>「家をつくりました。反対から見るとキリンに見えます。」</p> <p>7 次時の予定を確かめる。</p>	<p>○いろいろな視点から見えた作品を発表させる。</p> <p>○面白い発想をしている、沢山見立てているなど工夫して見立てているものを写真に撮り、モニターで映して紹介する。</p> <p>○次時の活動内容の予告をし、片づけをおこなう。</p>	

## 8 場の設定

児童が互いの作品を見合えるように、4人程度で机を向き合わせて、互いの活動が見えて話せるようにする。配膳台に紙箱を並べ、子どもが手にとって選べるようにする。



## 9 板書計画

ようこそ！はこのくにへ。

はこをくみあわせて、はこのくにへれっつごー！

がくしゅうのながれ

- ①はこをくみあわせる
- ②③せっちゃくざいでつける
- ④ともだちとさくひんをしょうかいしあう

みてみてたいむ

わたし（ぼく）は〇〇に見えました。

何に見えますか。

きょうやること

- 1.じぶんでかんがえる
- 2.ともだちとかんがえる
- 3.じぶんでつくる
- 4.ふりかえり